秋田大学広報誌〈アプリーレ〉
Aprire
No.60
2018

〈特 集〉
地域密着型
学生自主プロジェクト

特集

Project Based Learning

地域密着型学生自主プロジェクト

秋田県は全都道府県の中で少子高齢化が最も先行しています。秋田大学は平成16年に国立大学法人化後、当初の目的であった「地域との共生」を目指すために、秋田県内の中核大学としていち早く教育・研究内容を地域社会に還元し、地域社会が活性化するよう様々な取組みを続けてきました。まずは、教職員や学生が県内各地に出向いていくことから始め、地域住民と直接お会いすることにより、地域の方々が求めるニーズを少しづつ把握しました。そこへ大学のシーズをマッチングして、教育支援や地域産業の振興など、地域活性化のための支援策を協働で展開してきたことにより、地域から愛される大学、信頼される大学として成長してきたと考えています。

地域の課題解決を目指す学生にとって必要なことは、学生が他者と協力しながら、主体的に活動することです。秋田大学地方創生センターが推進する人材育成事業には、課外活動の一つである「学生自主プロジェクト」（以下「自主プロ」という）があり、これはＰＢＬ（課題解決型学習）を主眼としたものです。ＰＢＬによって得られる効果は、地域住民との交流を通じて地域社会に溶け込むことにより、企画力、高度な思考力、問題発見能力、課題解決能力など、さまざまな能力が養われる点にあります。

以上のように、本センターは学生が地域課題の解決を目指して活動したい、地域に触れ、そして地域の特性や特徴を再認識していこうとする積極的な学生グループを支援しています。

自主プロはものづくり型の取組みと、地域志向型の取組みの２種類に大別されます。本特集では、各プロジェクトを通じて学生がどんどん地域に入り込み、地域住民の理解と支援の下で、共に課題の解決に当たる後者の取組みについて紹介します。

地域志向型の自主プロは開始してまだ２年目ではありますが、平成29年度は３件の取組みがありました。今年度も継続して活動しており、さらに新規のプロジェクトが２件採択されています。

継続　藤里町再生プロジェクト

●代　表：国際資源学部国際資源学科資源政策コース２年　ハメド ユーチ ハシフ さん
●指導教員：教育文化学部地域社会講座　篠原秀一 教授

プロジェクトのターゲットである藤里町には、「人口が約3500人、高齢化率は約45％」「地域住民間での交流機会の減少」「他市町村から来る人が少ない」などの課題があります。そのため、このプロジェクトでは「学生と地域の方との交流」「地域内の方々の交流」「地域外との交流」を目的として活動しています。

〈昨年度の活動〉

①民泊体験

粕毛（かすげ）地区には、現在６件の民宿があり、「はなの民泊通り」という名前がつけられました。プロジェクトの学生が実際に民泊し、若者目線で様々な提案を行いました。その他、花植えや草刈り、石拾いなどによる民泊通りの景観の保護も行いました。

民泊先での記念撮影

②木苺の収穫・ピューレ販売

粕毛で栽培している無農薬の木苺に砂糖のみを加えて作ったピューレを地元のお母さんたちが作っています。プロジェクトでは、木苺の収穫を行い、秋大祭などの大学イベントでピューレを販売しました。

木苺の収穫

民泊通りをお花で飾りました

③小学生との交流企画

藤里小学校の４～６年生を対象に民泊体験、勉強会や木苺摘み、キャンドル作りを行いました。また、町歩きやクイズラリーを通して粕毛について知ってもらう機会を設けました。

④藤里町リーフレットの作成

民泊通りのリーフレットを作成しました。粕毛の住人や食の特色を出すために試行錯誤しましたが、無事に完成しました。

冬休みの勉強会

⑤イベント参加

運動会、粕毛神明社祭典や、雪祭りに参加させていただきました。

今年度は、粕毛地区での経験を活かし活動の継続に努めるとともに、米田（よねだ）地区での活動にも力をいれていく予定です。米田地区については、まだ実状がよく分からないこともあるため、リンドウ農家のお手伝いや街歩きを通じて地域の人々と交流するとともに諸問題を明らかにしていきたいです。

継続　檜山地域再生プロジェクト

●代　表：教育文化学部学校教育課程教育実践コース２年　佐藤拓斗 さん
●指導教員：教育文化学部地域社会講座　荒井壮一 講師

プロジェクト活動中の能代市檜山（ひやま）地区は、戦国時代に安東氏が治めていた檜山城址がある歴史の町です。秋田音頭にうたわれている檜山納豆や、北限の茶として知られる檜山茶がある檜山の中心部ではなく、東部の母体（もたい）地区を拠点に活動しています。このプロジェクトの目的は、「炭やきを観光資源として再興し交流人口を増加させること」「地域内での交流を促すこと」「炭やきの伝統を後世に伝えること」の３つです。

〈昨年度の活動〉

炭やき

檜山地域では、昭和25年頃まで農閑期である冬の重要な生業として炭やきが行われていました。しかし、戦後のエネルギー革命や国の政策転換により炭の生産は衰退していきました。檜山地域での活動を通して、地元の方と話し合いを重ねていく中、炭やきをもう一度復活させ、交流人口の増加につなげたいという希望があることがわかり、檜山の空に再び炭やきの煙をのぼらせるために本プロジェクトは活動しています。

雑木林にて薪運び

ただいま、炭出し中!

黄金の炭

シメは炭の選別

伝統芸能「羽立（はだち）ささら」への参加

羽立地区で毎年お盆に行われている伝統芸能「羽立ささら」は、地域の男衆のみが参加を許された行事でしたが、少子化や人口減少に伴い存続の危機にありました。しかし、参加した私たちの中に女子学生が含まれていたことが地域の女性の参加にもつながり、新たな可能性が広がりました。今年度も継続して参加し、伝統芸能の保存活動を行っていきます。

これから舞います、羽立ささら

崇徳小学校児童との交流

児童に炭やきを説明し、実際に体験してもらいました。

今年度は、炭の製作に関して、交流人口を増加させるための炭やきを通したイベントの開催や、炭やきを今後どのように活用していくかを地域住民と考えていきます。また、実際に炭やきを行っていた地域住民の方を対象にした聞き書きを行い、炭やきに関する冊子の作成を予定しています。これらの活動により、炭やき技術を可視化するとともに、外部に発信することで更なる交流人口の増加につながると考えられます。さらに、今年度は檜山茶に関する活動も取り入れ、地域との交流をより深めていきたいと考えています。

継続　地域防災から広げる「輪（コミュニティ）」プロジェクト

●代　表：教育文化学部地域文化学科２年　森井基貴 さん
●指導教員：地方創生センター 地域協働・防災部門　鎌滝孝信 准教授

「防災による地域づくり」をモットーに、秋田県にかほ市象潟地区を対象に活動をしています。秋田県でも、地震を引き起こす活断層は地下に多く眠っており、内陸直下型を含む日本海側で発生する地震では、津波の被害も無視できません。そんな中で、「如何に早く避難場所へ逃げられるか」「如何に多くの方が避難できるか」というソフト対策の面を私たちは考えています。

〈昨年度の活動〉

実際に歩いて作る防災マップ

私たちは現地に赴いて、「もし、その場で地震が起きたら」というシミュレーションの下、とある地点から実際に避難場所まで歩いて逃げるフィールドワークを行いました。それを反映し地図に記したものを、「防災マップ」と定義し、これを作成しました。そしてこのマップをベースに住民の方々との討議を行い、互いに思いつく避難障害事例を検討しました。

地元の自治会長の方々との意見交換会の様子です。私たち外部からの視点と、そこに住んでいる方の内部からの視点、お互いに進展の端緒となる話し合いが出来ました。

フィールドワークの様子。交通量や車線、信号機の配置を確認することで、実際に避難する時の障害になるような事例をピックアップしています。

自分の住む土地をより意識するために

自分のいる位置が今どれくらいの標高になるのかをよりイメージしやすくするために、高低差を付けた「３Ｄ防災マップ」を作成し、防災マップのブラッシュアップを行いました。私たちは「共に考え、解決する」立場として、学生からのアプローチを行っています。

今年度は作成した防災マップを用いながら同地域での防災教室や訓練を行い、地域の人々の「防災でつながる絆」を私たちも含め養っていきます。また、別の候補地で新たにフィールドワークを行い、双方での防災に関する取り組みや障害、自治会の活動を比較し、お互いに他地域の自治会活動を知ってもらう。そして、地域防災の観点から住民のつながりを深めることを目指します。

手形キャンパスで行われた「地域交流広場」にてプロジェクトの活動をアピールしました。防災活動の普及をますは秋田大学から目指します!

仙台で行われた「世界防災フォーラム」に一般参加してきました。違う大学の復興・防災活動や、研究内容を知ることは私たちの活動にとても参考になりました。

新規

あきた魅力発見・魅力発信ダーツの旅!

●代　表：国際資源学部国際資源学科資源政策コース４年　阿部信吾 さん
●指導教員：国際資源学研究科　藍澤淑雄 准教授

〈目的〉

秋田県において、魅力的な観光資源、歴史、人が揃っているのに、地域に住む人自身が地域の魅力に気づいておらず、情報発信もうまくできていないという問題を目にすることが多くあります。その地域に住む人自身が地域の魅力に気づいていない」という課題を解決するために、秋田県内外出身の学生の視点を取り入れ、実際に県内各地の市町村に足を運び、地域の人と交流することで、その地域の魅力を発見し、地域の方々にその魅力を再認識してもらうことが目的です。

〈具体的な活動方法〉

①各地域に学生自身が赴き、地域を学び、視察し、地域の人と交流することでその地域ならではの魅力を発見します。

②その魅力をインターネットやフリーペーパーなどを用いて「学生ならではの視点」から情報発信を行い、地域の人々にその魅力を再認識してもらうと共に地域振興への貢献を目指します。

③今年度は、これまでの地域貢献活動を通してお世話になった地域・人々を訪問し、これからプロジェクトを進めるための足掛かりをつくります。来年度以降も活動を継続し、秋田県全体の地域振興を目指して活動していきます。

美郷町のニテコ清水にて

新規

留学生×秋田 みらいプロジェクト

●代　表：医学部医学科４年　神亜沙美 さん
●指導教員：医学部公衆衛生学講座　野村恭子 教授

〈目的〉

少子高齢化、過疎化、孤独死、自殺率など、世界の先進国が発展の末に直面するだろう様々な社会問題に、いちはやく直面しているのが「課題先進県・秋田」。秋田大学には世界各地から多様なバックグラウンドを持った留学生が在籍していますが、秋田の社会的課題に目を向ける機会が非常に少ないのが現状です。そこで、留学生が秋田の地域課題について考える機会を作り、彼らだからこそ気がつく地域課題解決策を提案・実行することが目的です。

〈具体的な活動方法〉

①テーマとなる課題を設定します。次に事前勉強会を開き、予備知識を身に付けたうえでその課題に直面している現場（団体・企業など）にスタディーツアーとして行き、新たな視点からそれらの課題を捉えます。

②グループディスカッションを通して、留学生と共にその課題に対する解決策を模索し、自分たちなりに考えたことを関係者らにフィードバックし、秋田の課題解決を目指します。また、ＳＮＳを利用し、多言語を用いて活動を発信・拡散することで、秋田の課題に関心を持つ留学生の増加を図ります。留学生が帰国する際に秋田の課題から学んだことを自国へ持ち帰ることにより、これからの世界で起こりうる問題に対する課題解決に繋がることも期待されます。

③今年度は、「介護の現場で働く外国人を訪ねる」「障がい者の雇用現場を考える」などをテーマとして活動していく予定です。

今年度の活動についてミーティングを行うメンバー

昨年度の実績は以上のように大きな成果を得ました。また、今回の新規活動の内容を見ると、少子高齢化、過疎化、孤独死、自殺率などといった課題を抱える本県を少しでも良くしよう、明るくしよう、克服しようという熱い思いや、秋田大学を含む県内の大学生のネットワークを最大限に利用して秋田の魅力を発見し再認識してもらおうと、率先して地域貢献に向き合おうとする思いがひしひしと伝わってきます。

これらのように、学生が地域課題を見つけ、自主的に活動するという姿勢が客観的に社会に認められたことや、正課としてのＰＢＬ型授業、アクティブラーニング型授業等の助言を担う責任教員のバックアップとともに資金面においても可能な限り支援し、やがて社会に巣立ち中心的な存在として活躍する有為な「人財」を輩出していきます。

最後に、学生自身が選択することではありますが、秋田に魅せられた学生の力が結実し、近い将来に秋田県の人口増につながることも併せて期待するところです。

「価値ある大学2018年版就職ランキング」において、企業が選ぶ「採用を増やしたい大学ランキング」で秋田大学が堂々の全国一位に選ばれました。卒業生の「行動力」「対人力」が高く評価されたものです。

秋田大学は、学生が自ら立てた目標の実現のため、指導・助言を担う責任教員のバックアップとともに資金面においても可能な限り支援し、やがて社会に巣立ち中心的な存在として活躍する有為な「人財」を輩出していきます。

最後に、学生自身が選択することではありますが、秋田に魅せられた学生の力が結実し、近い将来に秋田県の人口増につながることも併せて期待するところです。

教　員　紹　介

国際資源学部

水蒸気噴火を軸にした火山現象の追究

大学院国際資源学研究科　資源地球科学専攻

大場　司　教授

わずかな水で大きな被害をもたらす水蒸気噴火

日本列島には108もの活火山があり、世界の活火山の7％を占めています。「活火山」とは、現在噴火活動をしている火山及び過去1万年以内に噴火した火山のことを指します。世界有数の火山大国である日本の中でも、北海道、東北、関東、九州地方には特に多くの火山が連なります。北海道の有珠山、熊本県の阿蘇山、鹿児島県の桜島、長野県・群馬県にまたがる浅間山、伊豆諸島の三宅島、長崎県の雲仙岳などが代表的です。さらに、日本の代名詞であり2013年に世界文化遺産に登録され多くの登山客で賑わう富士山も、噴火のおそれがある活火山なのです。

「記憶に新しい2018年1月の草津白根山の噴火や、2014年の御嶽山の噴火では大きな被害に見舞われました。これらは『水蒸気噴火』と呼ばれる種類の噴火でした。水蒸気噴火は火山研究の中でも世界的に研究者が少ない領域です。近年の火山災害により、研究の必要性が高まっていることも感じます」と話す大場教授。

高校の化学で習うように、水は急激に膨張すると大きな体積の水蒸気になります。水蒸気噴火もこれと同じ現象で、火山の地下にあるちょっとした地下水が、マグマの熱で温められて水蒸気になり、体積が増えて爆発するという原理です。

「わずかな水で、大きな被害をもたらす、それが水蒸気噴火です。噴火の高さや噴煙の形からどれくらいのエネルギーの噴火だったか、また地下でどのようなことが起きたのかを推定することができます。顕微鏡観察や化学分析では、地下がどのような条件にあるか、どのような火山で噴火が起きやすいのかも調査しています」

大場教授は岩石学と水蒸気噴火の豊富な知見を軸に、野外調査や火山灰等の堆積物の顕微鏡観察や化学分析（EPMA、XRF、質量分析、分光分析等）を主な研究手法として、噴火のメカニズムや鉱物資源との関係を研究しています。

御嶽山、草津白根山の水蒸気噴火

秋田県内での一番最近の噴火は、1997年（平成9年）秋田焼山の水蒸気噴火です。この噴火は御嶽山や草津白根山の噴火とよく似ていると言います。大場教授は就任以降ずっと研究を重ねてきました。御嶽山噴火の時は、培った水蒸気噴火についての研究手法や知見を元に、当時の博士課程の学生さんと一緒に研究を行ったそうです。

「金属鉱山関係の研究が盛んな秋田大学国際資源学部ならではの視点から、水蒸気噴火について調べることもできました。噴火した火山灰を調べ、地下には鉱山のようなものが形成されつつあるということを解明しました。高温の流体がある状態で、銅や金ができるということです。水蒸気噴火が起きていた環境で銅の鉱石もできるという説を鉱床学の研究者も唱えていましたが、実際に火山研究者が実地で噴火したのについて調べ証明したのは、我々が世界初でした」

大場教授は御嶽山噴火は、前兆として地下で地震が起きていたと言います。マグマの熱で沸騰する前の圧力がかかった地下水が動き、何らかの拍子に出てくるというのが、水蒸気噴火のしくみと捉え、その揺れを観測していれば、離れた場所の地震計でも測定できるという考えでしたが、草津白根山は、なんの前触れもなく突然噴火したと言います。偶然にも噴火が起きる数ヶ月前、大場教授は他大学の教授陣や学生たちと共に草津白根山を訪れフィールド実習を実施していました。現在、調査の見直しや観測体制の強化、活火山のリストアップ等の対策が施されているところです。

「噴火の予測には、長期予測と短期予測の二種類があります。我々は地層を観察することにより、その火山の噴火時期を調べています。百年や千年といったスケールでの長期予測になります。また、地震を観測している研究者は、地震や地殻変動などの観測から、噴火の短期予測を試みています」

近年の火山災害を受けて

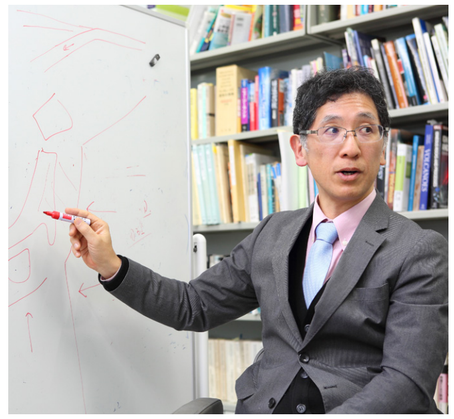
日常的に噴火に備えるためには、どのようなことに気をつけるべきなのでしょうか。特に活火山の近くに住んでいる人は、ハザードマップ上で自分の住んでいるところがどのような被害を受けるのかを確認し、防災機関の指示に従った備えをする必要があります。ただし、火山によって特徴が様々であるため、災害の形態も様々です。行政がそれを理解した上で、住民の皆さんにもよく理解して備えてもらいたいと、大場教授は話します。

「活火山から離れた場所で暮らす人も、登山や観光で活火山に行く際には火山情報をきちんと確認しておくことが大切です。今後も地域社会の『安全』を守るという点で、様々な行政機関や大学と協力しながら研究成果を活用して地域に貢献していきたいです」

シンプルでダイナミック、地球現象の魅力

大場教授が中学3年生の時に宮城県沖地震、高校3年生の時に日本海中部地震と、連続して大きな地震が起こりました。小学生の時には鳥海山の噴火を身を持って経験したこともあり、地球現象への関心が膨らんでいったと言います。中でも地学に興味を持ち、火山と地震について学びを深めました。

「国際資源学部は資源を学ぶところではありますが、その資源を生み出す地球の営みには様々なものがあります。地球に興味のある人にとてもおすすめしたい学部ですね。火山現象は、物理や化学の基本原理を簡単に適応できるという点や、ダイナミックでわかりやすいシンプルさも魅力です。とても奥が深いので、研究をすればするほどハマっていきます」と話す大場教授。これからも水蒸気噴火の貴重な専門家として、研究のニーズが高まる火山学を追究していきます。

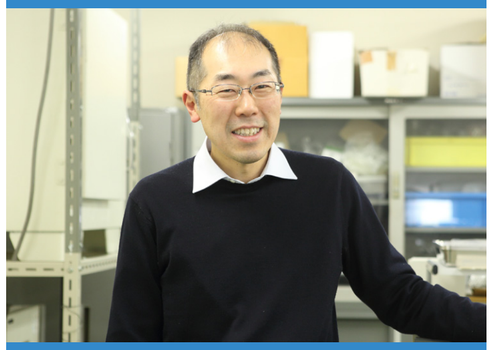


秋田大学国際資源学部　資源地球科学コース　岩石学研究室ホームページ　http://www.gipc.akita-u.ac.jp/~earth-resource/petrology/index_j.html

理工学部

「もみ殻」が電気を蓄える？

～秋田に豊富に存在するもみ殻を有効利用～



大学院理工学研究科　数理・電気電子情報学専攻　電気電子工学コース

熊谷　誠治　教授

培ったもみ殻の研究と専門分野の電気工学を融合

秋田大学着任前、研究員を経て秋田県立大学で8年間勤務していた熊谷教授。当時から秋田で毎年大量に排出される「もみ殻」の有効利用に着目していました。灯油の不純物を除去できる吸着剤を、もみ殻を炭にすることで実現するなど、現在の前身となる研究を行っていました。2011年、秋田大学に着任が決まり研究テーマを練っていた時に、今まで培ったもみ殻の研究と、元々専門としていた電気工学を組み合わせた研究をしたいと考えたそうです。そこで、もみ殻の炭が電池の電極材料としても使えるのではないかとひらめき、もみ殻を利用した蓄電デバイスの開発を行うことになりました。

パソコンやスマートフォン等の電池に使用されるリチウムイオン電池のプラス極にはリチウムを含む金属酸化物、マイナス極には炭素が用いられています。それら電極の間にセパレータというリチウムイオンを通すための小さな穴が多数あいた絶縁フィルムを挿入し、電解液に浸し、容器でパックすることで、リチウムイオン電池ができあがります。リチウムイオンが「プラス極とマイナス極の間を行き来することで、電池の充電と放電が可能になります。何度も充電と放電ができる蓄電デバイスは二次電池と呼ばれ、私たちの日常の生活と密接に関係しています。

タダ同然のもみ殻から、電極材料の炭素をつくりだす

リチウムイオン電池の中で重要な材料の一つが、マイナス極に使われる炭素、いわゆる炭です。現在のリチウムイオン電池に用いられている炭素は、鉛筆の芯に用いられる黒鉛や石油、石炭、プラスチックなど化石資源に由来するものを原料にしています。熊谷教授は、米どころ秋田で大量に排出されている「もみ殻」から、その炭素をつくりだそうとしています。しかも、単なる農業廃棄物の有効利用が目的ではなく、従来のものより高性能な炭素をつくりだすことを真の目的としています。

全国のもみ殻排出量は200万トン弱にものぼり、秋田県でも年間12万トンのもみ殻が排出されています。その3分の2は畜産および堆肥の資材「暗きょと言われる田んぼ下の水路用資材、園芸用くん炭などに利用されています。しかし、残り3分の1は明確な利用用途がありません。2000年頃までは、もみ殻や稲わらは野焼きにより処分することができましたが、現在、野焼きは条例等で厳しく制限されています。そのため、もみ殻の利用用途が限られていた地域では、もみ殻の処分が切実な問題となりました。熊谷教授は秋田県立大学在任中にもみ殻の有効利用についての相談を多く受け、早くからこの問題に注目していました。

もみ殻から蓄電デバイスができるまで

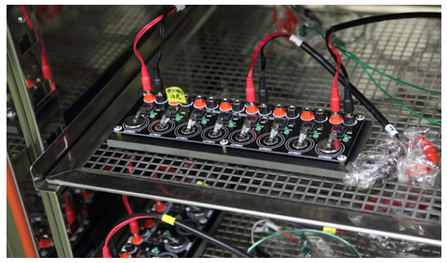
お米を包むもみ殻には、20％程度のシリカ（二酸化ケイ素）という成分が含まれています。稲は土壌からケイ素を吸い上げることで、穂が実っても倒れない強度を得ます。一方、稲は種子（お米）を守るために、それを包む殻を強固にします。すなわち、もみ殻にシリカを貯め込みます。健全な稲の成長には、シリカは欠かせないものです。熊谷教授は、植物有機分とシリカが混じり合うというもみ殻の独特な組成に着目し、もみ殻を蓄電デバイスの電極材料に活用する方法を見出しました。

もみ殻を利用した電極材料は以下のように製造されます。

酸素がない状態でもみ殻を熱処理して、もみ殻を炭化します。これは炭焼きと同じ原理です。この状態では、炭素とシリカがナノレベルで混じり合っています。そして、もみ殻炭を水酸化ナトリウム水溶液に入れて、シリカを溶出させます。ただし、すべてのシリカを溶出させずに、一定量のシリカを残すことが技術的な工夫になります。これにより、優れたリチウムイオン電池のマイナス極をつくることができます。また、溶出させたシリカは、ケイ酸ソーダまたは水ガラスとして、土建や窯業資材として有効活用できる可能性もあります。

「もみ殻には、シリカの他にカリウムやリンなど、土壌由来の無機成分が含まれます。無機成分は、稲の成長した土地によって異なります。元来成分に個体差のあるもみ殻を原料として、いかに同じ性能を有する電極材料を多量につくるかが、これからの課題になります。現時点において、特許出願および論文発表がなされており、今後は材料やデバイスメーカーとの連携を図り、実用化を目指します」

これまで活用できていなかったバイオマスを原料にして、優れた性能を有する蓄電デバイスを開発することができました。稲作が盛んな秋田では、もみ殻は安定的に排出され、また極めて安価です。熊谷教授の手により、処分に困っていたもみ殻が貴重な資源になるかもしれません。



社会的ニーズの高い、蓄電デバイスの研究

「パソコンやスマートフォン、最近では電気自動車やハイブリッド車など、様々な製品にリチウムイオン電池が使われています。この電池が、もっと長く使えたらいいなと思いませんか？」と熊谷教授。

再生可能エネルギーの導入、大気汚染を軽減できる電気自動車の普及、生活に不可欠な携帯端末の高性能化には、多くの電気を蓄えることができ、寿命も長く、軽量で安価な蓄電デバイスが必要不可欠です。蓄電デバイスの技術開発は、国際的にも注目される分野です。

「より性能の優れた蓄電デバイスを実現することで、研究者として、皆さんの生活および社会に貢献します。また、もみ殻という秋田に豊富に存在するバイオマスの有効利用を通じて、地域産業の活性化にも寄与します」

理工学部には、学生の皆さんが学んだ知識を直接社会に還元できるという魅力があります。理工学部を卒業することで、グローバル企業においていろいろな国で仕事をすることも、地元企業で働き、地域と密着した生活をすることもできます。すなわち、将来の選択肢が大きく広がります。最近、理系女子も増えており、研究開発の世界において、女性の活躍が目立つようになってきました。

面白いと感じたものに対する興味を膨らませ、いかに社会に役立つ技術を創り出すことができるのか、また、いかに新しい科学的な発見をするのか、この設問に対して自分なりの解を見つけることが、理工学の醍醐味です。熊谷教授は、次世代の科学技術を牽引する技術者、研究者の育成に情熱を燃やします。

秋田大学大学院理工学研究科　数理・電気電子情報学専攻　熊谷研究室ホームページ　http://www.ee.akita-u.ac.jp/~kumagai-lab/

●秋田大学研究者特設サイト「Lab Interview」で、インタビューの詳細や学生の声を掲載していますので、ご覧ください。　http://www.akita-u.ac.jp/honbu/lab/

リレーエッセイ 第8回

秋田大学に期待すること

秋田大学経営協議会学外委員の皆さんから秋田大学に対するメッセージを寄せていただいております。

秋田県知事　佐竹　敬久

全国の趨勢を上回るペースで人口減少、少子高齢化が進行する中、我が県では、この4月から県政運営の羅針盤ともいえる「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」をスタートさせました。

本県最大の課題である「若者の県内定着」を図り、「人口減少に歯止め」をかけ、豊かな秋田の未来創造に向かって、県民の皆様とともに歩みを進めていくことが、私に課せられた責務であり、人口減少の克服を目指して、今後とも精一杯取り組んでまいりたいと思います。

さて、東京一極集中を解消し、地方の人口減少に歯止めをかけるとともに、国全体の活力を上げようとする地方創生とは、地方がそれぞれの特徴を生かした自律的で持続的な社会をかたちづくること、魅力あふれる地方のあり方を築くことにほかなりませんが、少し言い方を変えれば、恵まれた地元の資源を活用しつつ、そこに住む人々が、人間としての素養を磨き、お互いを慈しみ合いながら、新たな産業や文化の振興にチャレンジしようとする地域社会の姿が、私の思い描くふるさと秋田の未来であり、それを支える「人づくり」こそが何よりも大切であると考えます。

こうした意味において、我が県の高等教育をリードする秋田大学の役割は極めて大きく、また、県民からの期待も、今後さらに大きくなってくると思います。

秋田大学は、古くからの鉱山開発の歴史を生かし、平成26年4月には国際資源学部を設置するなどの組織再編を行い、また、県内高等教育機関が連携しながら「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)」を実施し、若者の地元定着を促進するなど、地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでおり、常にその動向が注目されております。

COCプラス事業では、私も委員として参加している「秋田創生COCプラス協議会」において、秋田の創生に向けて熱のこもった議論が行われているほか、「地元秋田を知る機会」や「県内企業の魅力を知る機会」を学生に提供するなど、幅広い事業展開に大変感銘を受けております。

さらに、航空機等の素材として注目されている炭素繊維複合材(CFRP)の新しい成型技術の開発や、高齢化社会を見据えた長寿・健康研究教育拠点づくりなどの新たな取組が展開され、まさに「次世代に向けた新たな人づくり」に着実に進んでいるものと認識しております。

今後は、こうした取組の充実を図り、ふるさと秋田の将来を担う多様な人材を育成し、その人材を地域に輩出できるよう、大学の目指す姿をデザインするとともに、大学の運営基盤を強化していかなければなりません。

近年の秋田大学のこのような主体的でスピーディな動きに対しては、県民を代表して心から感謝するとともに、今後も、地域の産業活性化や個別のニーズにきめ細やかに対応できる高い実務能力を備えた人材の育成や、「地(知)の拠点」としての役割を存分に発揮していただくことを強く望んでおります。

激動の時を迎え、あらゆる分野で競争が激しさを増しております。秋田大学には今こそ、全ての知恵を結集し、地に足をつけて着実に、しかも時には大胆に、県とともに動き、全力をあげて、ふるさと秋田の未来を切り拓いてもらいたいと考えておりますので、ご支援のほど、よろしくお願い致します。

卒業生の皆様へ、大学から感謝の気持ちを
「秋田大学ホームカミングデー」開催

第4回秋田大学ホームカミングデーを平成30年10月20日(土)に開催します。ホームカミングデーは、卒業生の皆様に大学へ足を運んでいただき、各種イベント・企画を通じて、秋田大学の「今」をご覧いただくことを目的に開催しています。

今回は、記念講演会や交流会などの企画を予定。第52回秋田大学祭との同時開催となるため、各学部の研究室などが開放されており、在学生と交流を深めることもできます。卒業生の皆様におかれましては、ご家族、ご友人をお誘いのうえ、ぜひこの機会に、秋田大学へお越しください。

講演する佐々田亨三氏、今井裕一氏、吉田大作氏(左から)

講演会の様子

交流会の様子

写真は第3回秋田大学ホームカミングデーの様子(平成29年10月14日開催)

第4回 秋田大学ホームカミングデー

- 開催日：平成30年10月20日(土)
- 場　所：秋田大学手形キャンパス
- 内　容：記念講演会、交流会(予定)

※詳細については、秋田大学公式ホームページなどでお知らせします。

【お問い合わせ先】　秋田大学広報課　〒018-8502 秋田市手形学園町1番1号　TEL：018-889-2854　FAX：018-889-3242

豊かな自然を引き継ぎ
成長していく会社でありたい。

雄勝セラミックスは、創業以来たずさわる電子部品製造のノウハウと、未来に向けてICT技術と地域の自然を融合させて事業を推進しております。

事業内容
◆電子部品製造加工 ◆情報システム開発 ◆食品製造販売

雄勝セラミックス株式会社
OGACHI Ceramics CO.,LTD
〒019-0203
秋田県湯沢市寺沢字本郷82−1
Tel 0183-52-4343　Fax 0183-52-4348
http://www.ock.co.jp/

秋田県厚生農業協同組合連合会

JA秋田厚生連　検索

秋田大学生協は
受験生を応援します

大学生の学生生活を日常的にサポートするのが大学生協です。受験から入学準備のお手伝いまで、「現役の秋大生」が温かくサポートいたします！

受験生サポート情報・住まい情報など、こちらで随時更新中です!!

秋田大学生協HP

お問い合わせ　☎0120−327−141

学生広報スタッフ活動備忘録（仮）

オリジナルキャラクター完成しました

今年3月から、私たちは学生広報スタッフとしての活動を始めました。まず着手したのが「学生広報スタッフオリジナルキャラクター」の製作でした。キャラクターを作るにあたり最初に考えたのが何をモチーフにするかという点です。話し合いでは、秋田犬や熊、そして秋田県が生息地の南限というニホンザリガニなどの案が出ましたが、最終的には当初から名前が挙がっていたカモシカがモチーフとなりました。

ご存知の方も多いと思いますが、秋田大学にはカモシカにまつわる噂があります。大学構内でカモシカを一度(奇数回)見たら留年、二度(偶数回)見ることが出来たならば留年を免れるというものです。この噂から着想し、キャラクターを2体作ることにしました。名前の「キース」と「ぐーす」もそれぞれ「奇数」「偶数」が由来です。

キャラクターのデザインは、どの年代の方にも受け入れてもらえるよう意識しながら考えました。口は見えないようなデザインですが、目やジェスチャーでいろいろな感情を出していけたらと思っています。それぞれ角の数で奇数と偶数を表しており、目の角度でも雰囲気を変えています。また、秋田大学の学章のモデルである秋田蕗を身につけさせ、秋田大学らしさを出しました。

キースとぐーすの性格や見た目は対称的ですが、2匹に共通しているのは秋田大学そして秋田県が大好きであるという点です。学生広報スタッフのキャラクターとして誕生しましたが、ゆくゆくは大学や県のアピールにも役立ってもらいたいです。

この2体のキャラクターはまだ誕生日も決まっておらず、これからより詳しい設定を練っていく方針です。

最終目標はLINEスタンプの作成です。現時点では、キャラクターを用いた付箋やコットンバッグの製作を検討中です。現在は新しいポーズや表情を模索しています。認知度が高まるよう私たちも活動していこうと思います。

学生広報スタッフへのご意見やご感想はTwitterで受け付けております。お気軽に話しかけてくださいね！

ぐーす

キースの幼なじみ。
秋田蕗の頭飾りをつけている。
●一人称／ぼく
●行動・性格／おっとりしていて些細なことには動じない
●好きな食べもの／辛い物

キース

昔ケンカをしたときに角が1本折れてしまった。秋田蕗の胸飾りをつけている。
●一人称／オレ
●行動・性格／キレッキレな一方ですぐ不安になる
●好きな食べもの／甘い物

①全身のフォルムはゆったり、ぽってりとさせました。見た人の心が和むように意識しています。

②目を考えるのに一番時間がかかりました。考案中に様々なバリエーションが生まれたので、これからいろんな表情が見られるかも…

学生広報スタッフ
Twitter ID　@AkitaPRire

今日歩大祭2018

前日の雨が嘘のように当日は初夏の風が心地よい、絶好の今日歩日和でした。今年は102人が14・5キロメートル先のゴールを目指します。

スタートの前には、けがをしないように参加者全員でラジオ体操。なんだか懐かしい気持ちになりました。

体もほぐれて準備万端。スタート位置につきピストルの音を合図にいざ出発！

秋田市の街中を歩いていると、地域の方々が声をかけてくださいました。最近は、地域の方々とふれあうことも無くなってしまって、とても嬉しかったです。

市街地を抜けて、太平山に少しずつ近づいていくと秋田の美しい風景が見られました。田植えが終わり、緑色に輝く田園や、風に揺れる藤のカーテン、澄み切った川の水など…特に見晴らしの良い場所では歩いている途中に記念撮影をしている人もいました。また、道の途中には「fruits de saison」というリンゴやクッキー、ジャムなどを売っているお店がありました。せっかく見つけたので、帰る時にはちみつが練り込まれたソフトクリームにきいちごジャムがのった「きいちごソフト」をいただいてきました。

広報課チームのタイムは2時間45分。1番早いチームは2時間を切ったそうです。到着した後はカレーとフライドポテトをおいしくいただきました。

昼食の後はレクリエーションです。最初は玉運びリレー。2人で2本の棒をもち、その上にボールを乗せて走り、次の2人に渡します。トーナメント戦で優勝を競い合いました。

優勝したのは、男子バレーボール部＋留学生のJチーム。表彰式後に勝因をきいてみると「ボールの選び方と場所のとりかただ」と言っていました。その場で組まれたチームながらも、作戦をたて、協力しあったことが結果につながったのだと思います。

バスで帰ってきた参加者の皆さんの姿を見たとき、皆が笑顔だったのできっと一人ひとり、良い思い出を作ることができたのだと思います。

後日、今日歩大祭に参加した話をすると「私も参加したかった」と言ってくれた人もいました。今年生まれ変わった今日歩大祭は、いつもとは違った形で学生同士の交流、地域の方々との交流、秋田の自然との交流ができます。これから先も続いていって、また新しい歴史をつくっていって欲しいです。

真空ポンプで世界 No.1を目指す！

樫山工業株式会社
〒385-8511 長野県佐久市根々井1-1　TEL：0267-67-3311
http://www.kashiyama.com　info@kashiyama.com
ホームページで新卒採用エントリー受付中

おいしい魚を世界の海から食卓へ
丸水秋田中央水産
代表取締役社長　鈴木信夫
秋田市外旭川字待合28
TEL 018-869-5311㈹ FAX 018-868-1931

私達は、常にお客様の
信頼と満足を目指し、
より質の高い工事と
サービスを提供します。

ISO9001:2015 認証取得
能代電設工業株式会社
Noden
地域を支える企業を目指して
豊かな自然と、豊かな未来を。
http://noden.jp/
〒016-0801
秋田県能代市浜通町1-45
TEL 0185-54-4249

僕らの課外活動

カーリング部

○代　　表:深谷 祐樹
(国際資源学部 国際資源学科 3年次)
○所属人数:47人
○活動日時・場所:
(夏季)盛岡市アイスリンク 月1回程度
(冬季)秋田県立スケート場
水曜日:20:00～22:00
日曜日:19:50～21:30

「氷上のチェス」カーリング

カーリングとは、取っ手のついたストーンを氷に滑らせ、的となるハウスと呼ばれる円の中心にどれだけ近づけられるかを競うスポーツです。氷の滑り具合や敵の戦略を読む必要があるなど頭脳戦的な要素が多いため、「氷上のチェス」と呼ばれています。さて、ここで皆さんにクイズです。どうしてストーンを投げる際に、選手はスムーズにシートと呼ばれるリンクの上を滑っているのでしょうか?それは、片方の靴の裏側だけがツルツルした滑りやすい素材になっているからです。また、カーリングのリンクは、スケートのリンクとは異なり、ペブルと呼ばれる氷の粒が撒かれていることはご存じでしょうか?これは、リンクの表面がツルツルしているよりもデコボコしている方がストーンと氷との接触面が小さくなり、滑りやすくなるためです。カーリングの話を聞けば聞くほど、非常に奥深く、様々な理論や原理に基づいた知的なスポーツであることがわかります。

初心者からのスタート

秋田での練習は社会人の方々と合同で行うことが多いため、先輩からだけではなく、社会人の方からも指導を受ける機会がありま す。ほとんどの部員は初心者からはじめることが多いのですが、指導のおかげで力を伸ばし、秋田県代表として大会に参加することもあります。大会では、他県のプレーヤーと交流する機会もあり、良い刺激になります。

ウィンタースポーツ、いえいえ夏も活動しています

もちろん冬の活動が主になりますが、夏の間も月1回程度、盛岡にある通年リンクなどで練習をしています。暑い日こそカーリング日和!! ひんやりと冷たいリンクでの練習は快適で、夏の強い日差しを忘れて練習に励んでいます。

平昌オリンピックで話題「もぐもぐタイム」

「もぐもぐタイム」とは、全10エンドの試合において第5エンド後に設けられているハーフタイムのことです。カーリングは長丁場の試合であり、心身の消耗が激しいため、この時間を利用して選手は水分や糖分を補給して体力を回復しながら、作戦を話し合う重要な時間です。ただ、大学生の試合の多くは10エンド行われることが少なく、ハーフタイムが設けられていないため、残念ながらもぐもぐタイムは滅多にありません。

今年の目標

昨年度行われた第31回東北カーリング選手権において、男子は予選リーグを通過しましたが、決勝トーナメントで惜しくも敗れ、表彰台を逃してしまいました。今年こそは!と表彰台を目指しています。また、女子も予選突破に向け、日々の練習に励んでいます。また、今年は新入部員が多かったので、選手層を厚くし、チーム全体の底上げをしていきたいと考えています。

新入生・高校生へのメッセージ

東北の国公立でカーリング部があるのは秋田大学だけです。平昌五輪のおかげで日本全国でカーリングブームとなり、各地で行われている体験会は大盛況だそうです。秋田大学でも20名を超える新入生が入部してくれました。新入生でカーリングに興味のある方、高校生の皆さん、秋田大学で一緒にカーリングをしませんか?部員一同お待ちしております。

僕らの課外活動 番外編
僕らの学生自主プロジェクト

「学生自主プロジェクト」事業は、目的の達成(課題の解決)に向けて複数の学生が協力しながら活動する課題解決能力の育成を目指した取り組みであり、いわゆるPBL(Project-Based Learning)と言われるものです。秋田大学では、学生自らが設定した課題の解決に向けて、自主的に考え活動するための支援活動を行っています。

雪国秋田を彩るプロジェクションマッピングプロジェクト

○代　　表:佐々木 怜衣
(大学院理工学研究科 2年次)
○所属人数:11人
○活動日時:10:00～17:00(自由)
○活動場所:理工学部5号館 502

プロジェクションマッピングとは?

プロジェクションマッピングとは、建物の形に合わせて画像・動画を映し出す技術のことです。映像を投影するだけで現実ではありえない空間や建造物を表現できることから、全国各地のお祭りやテーマパークでイベントが実施されています。

観た人が楽しめるように

私たちの自主プロジェクトは、エンターテインメントを創出する活動ですので「どんな作品を制作すれば観ていただいた方々に楽しんでもらえるのか」を考え実現することに苦労しています。そのため、プロジェクトのメンバー同士で「観る側の立場」で考え話し合い、試行錯誤を繰り返しながら作品を制作しています。そのように作り上げた作品を楽しんでくださる方々の姿を見ると大きな達成感が得られます。

秋田大学イルミネーションとのコラボ

昨年の12月から今年の2月の各月に1週間ずつ、大学構内の壁面にプロジェクションマッピング作品を投影しました。これは、例年クリスマスの時季に合わせて開催されていた秋田大学イルミネーションをさらに盛り上げようという目的で、大学が学生とのコラボレーション企画を募集していたことから始まった企画です。12月21日に開催した点灯セレモニーでは、100人以上の方々にお集まりいただいたこと、点灯に合わせて「きよしこのよる」を歌ってくださった秋田大学混声合唱団「A-Choir(エース・クワイア)」をはじめとする多くの方々にご協力いただいたことで、大変感慨深いイベントになりました。毎月のイベント開催日には、地域の方々が大学構内で点灯を心待ちにしている姿を見ることもできました。学生に限らず地域の方々にも楽しんでいただけたことは、秋田の冬を彩るエンターテインメントをプロジェクトメンバーを中心として制作できた実感に繋がりました。

今後の展望

私たちは2016年までの活動で、観て触って楽しめる作品の制作に注力していましたが、昨年度の秋田大学イルミネーションとのコラボを皮切りに、今年度はたくさんの方々に楽しんでもらえるような体験型コンテンツの制作を進めていきたいと考えています。

高校生・新入生へのメッセージ

高校生・新入生のみなさんは今「人生でやってみたいこと」はありますか。学生自主プロジェクトとは、そんな「やってみたい」を秋田大学がサポートしてくれる貴重な制度です。自主プロジェクト加入や立ち上げを経験することで、講義や研究とはまた違ったスキルを身に着けることができますし、大学生活に新たな彩りが加わりますよ。

先輩なう。 秋田大学卒業生の今(=なう)をご紹介。

PROFILE

安宅 涼太さん

秋田市役所
福祉保健部保護第一課
行政職

◆教育文化学部地域科学課程
2012年卒業

今の仕事内容、やりがいを教えてください。

現在、保護第一課という生活保護を担当する課に所属しています。仕事の内容は大きく分けて三つあり、生活保護受給を申請された方が実際に受給できるかどうか調査すること、受給している方々のお宅に伺い生活状況の確認を行うこと、受給している方々の収入の状況に合わせて支給額の変更処理を行うことです。このような業務に携わる人たちは一般的にケースワーカーと呼ばれています。

生活保護とは、やむを得ない事情で金銭的に困窮した方々の自立を手助けする制度です。受給したことをきっかけに、再就職先を見つけるなどの自立されていく過程をお手伝いできるところにやりがいを感じます。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

大学2年次の時、ある自治体の事業にアルバイト感覚で参加しました。その際にお世話になった職員の方と接するうちに、その方の仕事に対する考え方に憧れ、このような人になりたいと考えたことがきっかけだったと思います。

就職活動で特に準備されたこと、気を付けたことはありますか。

公務員を志望するにあたって、1年くらいの期間をみて試験対策を行っていかなければいけないと当時の先輩方から聞いていたので、3年次の春頃から試験対策を始めました。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

将来の目標が明確に定まっていなかった高校時代の自分にとって入学してから多岐にわたる分野から、自分の学びたいことを選べることに魅力を感じました。また地元である秋田に残って仕事をしたいと考えていたため、就職先に地元企業が多いと感じたことも理由の一つでした。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。。

大学時は地域社会学を専攻しており、フィールドワークを通じて初対面の方のお宅を訪問してお話を伺う機会が多くありました。そこで様々な人とのコミュニケーションを通じ、自身の経験だけでは想像がつかないような考え方を持っている方がたくさんおられることを学びました。市役所の窓口は、様々な年代、多種多様な思考を持った方々など本当にいろんな人が来ます。学生時代に少しではありましたが、人の考え方は十人十色であることを学んだことが、市役所の職員であれば大部分の人が経験するであろう窓口業務等の対人折衝で生かされていると考えています。

後輩にメッセージをお願いします。

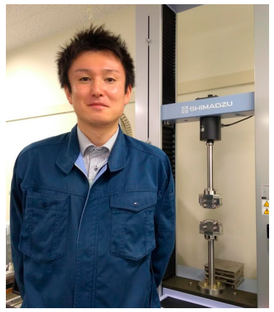
私は秋田市役所に入所してから、大切だと思ったことがあります。それは自分の楽しみを見つけることです。仕事に対して高いモチベーションで臨むためには余暇時間の充実が大切だと思います。私は大学生の時に生涯の趣味になるであろうものを見つけました。休日に楽しみがあると、それに向けて仕事も意欲的に行うことができます。たくさんのことに挑戦できる大学生のうちに、生涯の趣味を見つけることを私はお勧めします。

PROFILE

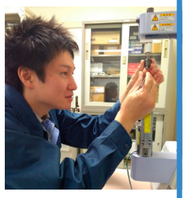
黒沢 憲吾さん

秋田県産業技術センター
研究職

◆工学資源学研究科 材料工学専攻
2013年修了



今の仕事内容、やりがいを教えてください。



現在、秋田県産業技術センターで研究員として業務に携わっています。担当分野は金属材料、デジタルエンジニアリング、鋳造などです。業務は、県内企業の技術支援と研究業務に大別できます。どちらの業務でも、目的に対して科学的な根拠を用意し、論理的に物事を進めることが重要であり、やりがいを感じています。

今の仕事を目指したきっかけを教えてください。

博士後期課程の2年目に、当時の指導教員から現在の職場の採用情報を紹介していただきました。分野を問わず、地元秋田で研究員として就職できる機会は滅多にない、貴重なチャンスだと感じました。就職する上で博士後期課程を中退する必要がありましたが、職場と大学との距離が近く、職場には社会人博士に対する支援制度が設けられており、社会人博士として復帰を考えた際のメリットがあったことも理由の一つです。

社会人入学を決めた理由を教えてください。また、現在社会人学生として在学していて感じることはありますか。

最近は予算縮小に伴い、研究員には外部資金を獲得する能力が必要とされています。予算確保から成果報告まで自立した研究員になるためには、まず学位を取得することが重要だと考え、入学しました。現在は、業務終了後、可能な限り毎日登校するようにしています。確保できる時間が少ない分、メリハリよく研究に取り組むよう心がけています。

卒業された学部を選んだ理由を教えてください。

私はもともと機械系の分野に興味があり、工業高校の機械系学科を卒業しています。高校の頃に受けた授業や実習の中で、材料を知らないと工業製品は作れない、材料工学がものづくりの基盤なのだと感じ、進学を決めました。

秋田大学での学びが、現在どのように生かされていますか。

日々の業務で対応する課題は、材料の破面観察や3Dモデリングなど様々です。しかし、内容を整理すると材料工学の観点から検討できる項目が必ずあります。また、秋田大学卒業生と一緒に仕事をする機会も多く、年齢・学部を問わず親身に助けてくれる先輩が多いと感じています。学びというわけではありませんが、秋田大学を卒業することで得られた人脈も仕事に役立っています。

後輩にメッセージをお願いします。

大学の研究室で行ったことを、そのまますぐに仕事に応用できる人は少ないと思います。社会人の中には、大学で勉強したことは社会で役に立たないという人もいますが、それは大きな間違いだと感じます。大学で学んだ知識は、社会で人を納得させる論理を組み立てるための材料になります。また、分野が異なる知識でも、他の知識と組み合わせることで観点を変え、新しい発想に行き着くことができるかもしれません。この材料は多くて困るということはありません。少々面倒でも、材料集めを怠らず充実した大学生活を送ってください。

NEWS&TOPICS

ニュース&トピックス

2018.03. ›››2018.06.

APRIL

平成30年度入学式

4月5日、秋田県民会館で入学式を挙行しました。

平成30年度入学者は、大学院生を含め1332名。内訳は、国際資源学部129名、教育文化学部215名、医学部233名、理工学部448名、大学院277名、学部編入30名。

式では、山本文雄学長が「皆さんの大学生活には多くの方々の期待が込められており、その期待に応えられるよう、このアカデミアで幅広い教養を身につけるとともに思考力・判断力・表現力並びに主体的に学習に取り組む態度といった基本的能力を養ってほしい。また、世界にも目を向け、これまでの学びと大学生としてのこれからの学びを礎に、未来の平和について思いを巡らせることを期待する」と告辞を述べ、新入生代表として国際資源学部の小山由修さんが「秋田大学の学生として学則を守り、教育方針に従い、豊かな教養と高度な学術の修得に勉める」と宣誓を行いました。

在学生代表の医学部・深谷美里さんからは「これからの豊かな人生を送るために、大学生活では、視野を広げることを意識して、存分に学問に励み、研究、留学、課外活動など何でも挑戦してほしい」と歓迎の言葉がありました。

また、式終了後の会場外では、サークル勧誘に多くの在学生が集まり、明るい声で新入生に入部を呼びかけるなどして賑わいを見せていました。

新入生代表による宣誓

会場外でサークル勧誘を行う在学生

MARCH

「学生広報スタッフ」委嘱状交付式

3月6日、大学広報の学生スタッフの委嘱状交付式を実施しました。学生広報スタッフは新入生や高校生などに向け、学生目線から大学の魅力を発信してもらうことを目的に募ったもので、今回3名の学生に対し委嘱を行いました。

交付式では、近藤克幸副学長から学生一人ひとりに委嘱状と名札等が手渡されるとともに「学生目線で、秋田大学のアピールポイントを積極的に発信していただきたい。また、広報課職員と協働し大学の広報に携わることは、今後のキャリア形成に繋がる活動ともなること。ぜひ一緒に戦略を考えてほしい」と激励の言葉が送られました。

広報スタッフの委嘱を受けた学生たちは、取材や原稿づくり、SNSによる発信など学生の視点で進める広報活動に意欲を見せていました。本誌の7ページに学生広報スタッフの活動を掲載しています。

近藤副学長と学生広報スタッフ

MAY

看護の日～看護のこころをみんなのこころに～

医学部附属病院は5月10日から14日までの5日間、同病院外来棟1階ホスピタルロードにおいて「看護の日～看護のこころをみんなのこころに～」を開催しました。

この企画は、ナイチンゲール生誕の5月12日にちなんで制定された「看護の日」に合わせ、同病院の看護師の活動を通して看護への関心と理解を深めてもらうことを目的として実施。今回は期間中、「看護の日」や緩和ケアセンターの紹介、また看護師教育や専門・認定看護師についての説明などをポスター展示で行ったほか、5月11日には「ストレスチェック」「栄養指導・サンプルなどの提供」「乳がんセルフチェック」「手洗いコーナー」など、来場者が実際に自身で体験できるイベントも行いました。

「手洗コーナー」を実際に体験した来場者からは「改めて手洗いの大切さが分かった」といった感想が聞かれ、看護師や健康への関心をさらに高めている様子でした。

「手洗いコーナー」の様子

JUNE

平成30年度キャンパスクリーンデー

6月5日、手形及び本道キャンパスで「キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃作業）」を実施しました。

この活動は、例年本学の環境美化を図るとともに、教職員・学生の環境保全意識を高め、教育・研究の一層の推進に資することを目的として実施しており、大学の構内に落ちている紙くず、空き缶・落ち葉等の清掃を行うものです。

作業に先立ち教職員・学生を前に挨拶した山本文雄学長からは「大学という学びの場にふさわしい環境となるよう、ゲガや体調に気をつけながら清掃活動に取り組んでほしい」との話がありました。

率先して清掃活動する山本学長

作業開始の時間になると教職員・学生らは、事前に割り振られた担当エリアに分かれて清掃活動を始め、落ち葉や小さなゴミを拾うなど、細かい箇所まで清掃することを心がけながら、大学構内の環境美化に努めました。

多くの学生も参加

今日歩大祭2018

秋田大学体育会は5月26日に、「今日歩大祭2018」を開催しました。このイベントは平成28年度まで同会の伝統行事として行われ親しまれてきた「今日歩大会」が、今日歩の要素を保ちつつレクリエーションの要素も加えた「今日歩大祭」としてリニューアルスタートしたものです。

開会式では、山本文雄学長が「学年や学部の垣根を越えて同じときに同じ大学で共に生活し勉学に勤しむ仲間として、完歩を目指し、一緒に汗を流して有意義な一日としてほしい」と挨拶。また、同大会実行委員長で教育文化学部2年次の鳴海僚さんが「今日歩大祭を参加者同士の交流を深める場としてほしい」と挨拶しました。

開催式の後、山本学長の合図とともに参加者が一斉に手形キャンパスを午前9時にスタートし、秋田市太平山リゾート公園までの約14・5kmの道のりを歩きました。参加した学生・教職員は、個人または1グループ4名以内の2形式のいずれかでエントリーしており、ゴールまでの道のりを全力で踏破して記録を目指す者、サークル・部活動などでチームを組み、ゆっくりと会話を楽しみながら自分たちのペースで歩く者と様々でした。

手形キャンパスを出発する参加者

参加人数は102人で、トップでゴールしたのは、ワンダーフォーゲル部の男子学生2名。タイムは1時間55分。参加者の多くが次々とゴールし、参加者102人が完歩したのは12時35分でした。

目的地である太平山リゾート公園では参加者が到着した後、昼食としてカレーが振る舞われ、しばし休憩を取ってからボール運びリレーや綱引きなどの様々なレクリエーションが催されました。参加した学生・教職員らは歩き続けた疲れも見せずに、皆で賑やかにレクリエーションに興じて親睦を深めていました。

スターターの山本学長

国立大学法人秋田大学の役職員の報酬・給与等について

公表内容

Ⅰ 役員報酬等について
- 1 役員報酬についての基本方針に関する事項
- 2 役員の報酬等の支給状況
- 3 役員の報酬水準の妥当性について
- 4 役員の退職手当の支給状況
- 5 退職手当の水準の妥当性について
- 6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

Ⅱ 職員給与について
- 1 職員給与についての基本方針に関する事項
- 2 職員給与の支給状況

Ⅲ 総人件費について

Ⅳ 法人が必要と認める事項

主な概要

1. 役員報酬及び職員給与の年間総額　（単位：千円）

役　員	報酬等総額
学　長	18,334
A理事	12,912
B理事	13,869
C理事	12,886
D理事	13,472
A監事	11,477

職　員	年間平均給与
事務・技術職	5,205
大学教員	8,090
病院看護師	5,252

2. 人件費総額　（単位：千円）

平成29年度	15,665,558
平成28年度	15,858,020
比較増△減	△192,462（△1.2%）

平成29年度に係る本学役員の報酬及び職員の給与水準の資料を秋田大学公式ホームページに公表しています。
http://www.akita-u.ac.jp/honbu/publicinfo/pu_legal.html

表紙は

●撮 影 日：5/28（月）
●撮影場所：秋田大学陸上競技場
●撮影対象：課外活動団体
アルティメットフリスビーサークル「BLITZ」
●撮 影 者：理工学部 機械工学コース1年
野々宮由美香さん

今回の表紙写真は、秋田大学の課外活動団体であるアルティメットフリスビーサークル「BLITZ」の練習風景を撮影したものです。写真部の学生たちは動きのある写真を撮るのに苦戦しながらも納得のいくものが撮れるまで頑張ってくれました。

撮影に協力いただいたBLITZの皆さん、ご協力ありがとうございました。今後の活躍を応援しています。

広報課

丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に
一般財団法人 丁酉会
保険調剤
丁酉会薬局
秋田大学病院前

心を、つなごう。

わたしたちは、社会が必要なことは何かを考えて事業を通じて、未来のために、まちづくりや人財育成を行うことが大切であると考えます。

Daiwa Lease 大和ハウスグループ
大和リース株式会社
秋田支店
秋田市御所野元町 1-1-1　〒010-1414
Tel：018-892-7152　Fax：018-892-7153
www.daiwalease.co.jp

SKILL&HEART
「秋田」だからできる
先端のICTを
秋田の有能な人材を採用し、育成・活用することで地域活性化に貢献してまいります
株式会社テクノス秋田
代表取締役　相田龍三
秋田県秋田市中通3丁目2番44号
秋田河北ビル5F
TEL 018-884-7090 FAX 018-884-7091
http://www.tks-akita.co.jp/
technos

株式会社 松　田
株式会社湯沢生コン
地域の発展とともに
松田グループ
株式会社丸栄建設
株式会社出羽運輸
株式会社エイコウ物産
【本社】湯沢市字鶴舘 39-4
TEL ： 0183-73-0188
URL ： http://www.matsuda-group.jp/

ヒトには
創れないモノがあるから。
いつからだろう
四季の移ろいを あたり前のように
感じられなくなったのは
いつからだろう
自然の恵みに抗いはじめたのは
後悔しても
人には創れない
なつかしい風景のために
自然と私たちのあたり前の関係を
維持するために
さあ、いっしょに循環型社会へ

ユナイテッド計画株式会社
United
本社／〒018-1414 潟上市昭和豊川槻木字槻13-1
TEL:018-877-3027　FAX:018-877-3986
リサイクリングワーク秋田事業所／TEL:018-864-0668 FAX:018-864-0680
リサイクリングヒルズ潟上事業所／TEL:018-877-5770 FAX:018-877-5794

イベント&講座・講習会 Event,Seminar,Workshops & Extension course

催し物

教育文化学部天文台イベント

天文サイエンスカフェや、45cm反射望遠鏡と10cm屈折望遠鏡を使った夜間天体観察会を実施します。

●8月4日(土)18:00～20:00
●9月1日(土)17:30～19:30
●10月6日(土)17:00～19:00
●教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
●対象／どなたでも
（夜間観察会は中学生以下は保護者同伴）
●参加費／無料
☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)
●mouri@gipc.akita-u.ac.jp

秋田大学総合技術部 第10回テクノフェスタ

秋田大学技術系職員の専門技術を地域の方々に広く知っていただくことを目的として、体験型企画等を行います。

●9月30日(日)
●秋田拠点センターALVE 1階きらめき広場
●対象／小学生以上
●参加費／無料
☎018-889-2454(総合技術部 川原谷)

平成30年度 秋田大学高大接続教育フォーラム

高校、大学双方の立場から高大接続に関する取組事例報告を行った後、教科等に分かれて意見交換を行います。

●10月19日(金)13:30～16:30
●秋田大学手形キャンパス
●対象／秋田大学教職員、秋田県内高校教員、その他大学及び高校教育関係者
●参加費／無料
☎018-889-3045(総合学務課高大連携室)
●setsuzoku@jimu.akita-u.ac.jp

わたしだけのものづくり体験! 教室2018

いろいろなテーマでものを作ったり、体験してもらうブースを開催します。

●10月20日(土)
●秋田大学理工学部1号館2階201
●対象／どなたでも　●参加費／無料
☎018-889-2736(大学院理工学研究科技術部)

第52回 秋田大学祭

「Graffiti」をテーマに、ステージ企画、企画展示、模擬店などを行います。

●10月20日(土)・21日(日)10:00～17:00
●秋田大学手形キャンパス
●対象／どなたでも
●参加費／無料
☎018-889-2255(学生支援・就職課)
●akitaunifes@gmail.com(秋田大学祭実行委員会)

公開講座

緩和ケアセンター／がん相談支援センター主催 「ひだまり教室」

〈がんによるうつ〉精神科の医師が、「がんによるうつ」についてお話しします。
●8月1日(水)14:00～15:00

〈介護保険制度〉医療ソーシャルワーカーと看護師が、「介護保険制度」をテーマにお話しします。
●8月23日(木)14:00～15:00

〈がんの痛み〉がん性疼痛看護認定看護師が、「がんの痛み」についてお話しします。
●10月2日(火)11:00～12:00

〈治療による外見の変化への支援〉がん看護専門看護師が、「治療による外見の変化への支援」についてお話しします。
●10月4日(木)14:00～15:00
●医学部附属病院　外来棟1階院内図書室「ひだまり」
●対象／どなたでも
●参加費／無料
☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

がん相談支援センター・緩和ケアセンター共催 市民公開講座 「がんと向き合うために～住み慣れた家で、自分らしく過ごそう!～」

病気になっても、住み慣れた家で自分らしく過ごすために、病院と地域ではどのように連携しているのかについて理解を深めてもらうため、退院調整看護師、訪問診療医師、訪問看護師や地域包括支援センター相談員などの役割と活動等について講演を行います。

●9月1日(土)10:00～12:00
●医学部附属病院 本道40周年記念会館2階 本道記念講堂
●対象／どなたでも
●参加費／無料
☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

秋田大学公開講座 「身のまわりのエレクトロニクスを学び直す」

発電、モータ、自動車、音などエレクトロニクスの幅広い分野の基礎と最新の応用例について紹介します。

●8月21日(火)「ゴミから発電」
●8月28日(火)「拡がるモータの世界」
●9月4日(火)「カーエレクトロニクス」
●9月11日(火)
「音を観る～声や楽器の音を観てみよう～」
●9月18日(火)
「音で診る～私たちの暮らしにおける超音波技術～」
●全5回　毎週火曜18:00～19:30　各回90分
●手形キャンパス　●定員／30名
●対象／どなたでも(要事前申し込み、8月13日(月)締切)
●受講料／2,500円
☎018-884-2270(地方創生・研究推進課)

秋田大学みらい創造基金 ご協力をお願い申し上げます。

「秋田大学みらい創造基金」は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、使途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という本学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

みらい創造基金による事業紹介

○新入生育英奨学資金(一般基金)

学部新入生を対象とした秋田大学独自の給付型奨学金制度を、平成30年度より設立し、6月に採用学生を決定し、奨学金を給付しました。給付額は1人10万円(入学料免除許可者は5万円)です。

○附属小学校の教育・学習環境整備(附属学校園寄附金)

附属小学校の教育・学習環境整備として、はとの子ホールへプロジェクターを設置し、図書館の児童図書を充実させました。

○附属病院の環境整備(病院寄附金)

外来各所に設置している待受用ロビーチェアーが老朽化していたため、新規に購入したほか、外来患者さんやご家族の方の利用頻度が高い場所にゴミ箱を設置しました。

○医学部の環境整備(医学部寄附金)

本道キャンパスの体育館改修工事に伴い、学生が使用する更衣室のロッカー、玄関のシューズケースと傘立てを新しく設置しました。

※その他の事業については、
秋田大学ホームページで紹介しています。

〈ご寄附のお願い〉 ●個人の方:一口1,000円　●法人の方:一口10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口のご協力をお願いいたします。
また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせ下さい。

〈ご寄附の方法〉 ●振込によるご寄附　●クレジットカードによるご寄附
●古本募金によるご寄附　●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み、詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧いただくか、基金事務室までお問い合わせください。

〈古本募金のお願い〉

読み終わった書籍(CD・DVD等を含む)を本学の提携業者が買い取り、その売却代金をご寄附いただく「古本募金」をぜひご活用ください。5冊以上から送料無料でご指定の場所に集荷に伺います。ご希望の方は、下記にお電話いただくか、秋田大学ホームページからお申し込みください。

株式会社バリューブックス ☎**0120-826-292**(電話受付時間 10:00～21:00 日曜は17:00まで)
※「秋田大学みらい創造基金『古本募金』の申込」とお伝えください。

〈寄附者ご芳名〉この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等

●秋田大学生活協同組合　様
●秋田大学有志一同　様
●瀬下建設工業株式会社　様
●大和リース株式会社　様
●株式会社テクノエイジ　様
●テクノスグループ　様
●株式会社東北フジクラ　様

個人

●秋葉　守雄　様
●浅田　昌弘　様
●市川　逸郎　様
●猪股　祥子　様
●今野　和彦　様
●岩谷　作一　様
●岩脇　将隆　様
●上田　晴彦　様
●大高　麻衣子　様
●大森　泰文　様
●加賀谷　長之　様
●北畠　伸顕　様
●工藤　英美　様
●工藤　素子　様
●齊藤　義広　様
●嵯峨　昌平　様
●佐藤　健一　様
●佐藤　聖栄子　様
●佐藤　美起雄　様
●佐藤　佑樹　様
●真田　田鶴子　様
●澤田　隆　様
●三戸　学　様
●菅原　孝悦　様
●瀧口　守之　様
●長田　信夫　様
●羽渕　友則　様
●堀江　瞬　様
●山田　久仁夫　様
●吉田　壽壽　様
●渡部　アヤ子　様

他　匿名希望　32名様(延べ数)(平成30年2月～5月末入金分　五十音順)

〈お申し込み・お問い合わせ先〉秋田大学みらい創造基金事務室　〒010-8502秋田市手形学園町1番1号　☎018-889-3266(総務企画課内)　kikin@jimu.akita-u.ac.jp
秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからお申し込みいただけます。(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html)　秋田大学　みらい　検索

[企画・発行] 国立大学法人 秋田大学 広報課 | 秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502 TEL:018-889-3019 FAX:018-889-3242 E-mail:kouhou@jimu.akita-u.ac.jp